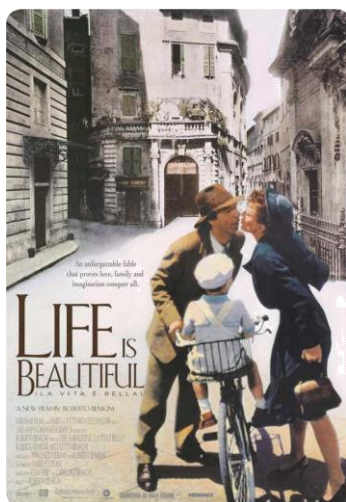


@幸せな贈り物

人生は美しい



受刑番号 A15810

アウシュビッツの大虐殺で生存して、映画「ライフ・イズ・ビューティフル」のモデルになったルビーノ・ロメオ・サルモニ（Rubino Romeo Salmoni）さんが91歳で亡くなりました。イタリア系のユダヤ人であるサルモニさんは第2

次世界大戦が行われた1940年代に兄弟といっしょにナチによって、アウシュビッツ収容所に引きずられて行って生き残りました。彼はひらめきのあふれる逆説とユーモアを混ぜて「結局、私はヒトラーに勝った」という回顧録を出刊したのですが、一番極限の状況の中でも、希望とユーモアを失わなかった彼の人生は、1998年イタリア映画俳優ロベルト・ベニーニが製作、監督、主人公まで引き受けた「ライフ・イズ・ビューティフル」の誕生に決定的なモチーフを提供しました。ユダヤ人「ガイド（Guid）」がともに収容所に引きずられて行った妻と息子を守るために、笑いを失わないで孤軍奮闘する姿、特に幼い息子が心の傷を受けるかと思って、収容所での生活をゲームだと装った彼が射殺されに引きずられて行く最後の瞬間にも、こっけいに歩きながら消える場面は、全世界の観客の涙を誘いました。

世の中はまだ極限の困難の中でも希望を配慮する人々の話が私たちに穏やかな感動を伝えてくれます。最近、被告人の娘と判事との切ない手紙の

内容が知らされて、人生の美しさを感じさせています。ウルサンの地方裁判所ソン・クムソク部長判事は、自分が進行している裁判と関連して、最近、ある女子高生から手紙をもらいました。女子高生Aさんは、担当であるソン部長判事に直接手紙を送って、弟とともに難しく過ごす自分の残念な理由を紹介しながら、詐欺事件などで裁判を受けているお母さんを返してくださいと善処を訴えました。Aさんの残念な理由を知るようになったソン部長判事は、異例の直接の返事を書きました。

「この手紙を書くおじさんはウルサン地方法院刑事2単独ソン・クムソク部長判事です。今朝早くももらったあなたの手紙を見て、10時に行うあなたのお母さんに対する裁判記録をもう一度読んでみました。私も子どもを育てる親として、あなたのお母さんを許してあげたいが、犯した罪がとても多くて、被害者も多く、被害者の赦し（被害返済）をまずしなければ、私も許してあげられないのです。あなたが学校で行うささいな誤りならば反省文作成や奉仕活動で謝罪にかえられるでしょうが、裁判所で刑事裁判を受ける犯罪はそれとは次元が違うのです。あなたとあなたの弟が直面している現実に、真に心が痛くて涙が出ます。私も難しい幼・少年時期を送りながら育ったので、あなたの境遇が他人事ではないように思います。あなたのお母さんをあなたたちの元に送り返すことができない残念な私の心を遠い将来には理解できるようになると思います。くれぐれも挫折せずに、困難を勝ち抜いて健康で強く育ててほしいです。弟の面倒もよくみて、失敗とは倒れることではなく、倒れた場にそのまま留まることだとだれ

かが言いました。長い長い人生を生きれば、だれでも倒れるでしょう。しかし、倒れた場にそのまま留まらずに、さっと振り払ってまた起きあがってください」

世の中で最も腐敗したのが人間の心だと言われます。しかし、世の中で最も美しいのが人間の心です。ガラス瓶の価値は材質が何かでなく、その中に何が入られるかによって決定されるように、人間の価値も水準や能力以前に、その心に何が入っているかによって価値が決定されるのではないのでしょうか。

美しい人生のために

最初に創造された人間は最も美しい人生であったということを聖書は語っています。神様の荘厳な創造の働き、すべての被造物の中で最も美しい創造物は、まさに「人間」でした。神様のかたちとして造られた人間は、神様の完ぺきな計画の中で、どの被造物よりも祝福を受けた存在として、そして、この地に存在する他の被造物を治める存在として造られました（創世記 1:26~28）。この地で産んで、増えて、神様を喜ばせる最高の価値ある存在として造られたのです。人を造って神様は感嘆されました。“It was so good,so very good!”神様をご覧になって、非常に良かった!のです。神様のかたちとして造られたというのは、人間がすなわち神様に似た神様の最も大切な子どもとして造られたことを意味します。いわゆる私たちがうれしく話す万物の霊長というものです。

それでも、今日、自分の運命を動物と腐っていくボロの形に変えて、犬年、丑年、午年だと生きて、動物にお辞儀をしながら、生年月日による運勢を変えたいと願う人間の生活は、残念なことどころではありません。はなはだしくは鶏を生きのまま殺して、死んだ先祖の悪霊をなだめて恨みをはらすムダン（霊媒師）の形態は、創造以前にすでに神様に敵対

して、この地に落ちて人間と世の中にやみと混とんと空虚をもたらしたサタン、悪魔、悪霊の働きで説明しなくては、どんな宗教と哲学でも解釈できない行為です。

神様が願われるのは、本来の人間としての美しい人生です。この美しい人生は単純な真理で始まります。魚が水の中に住んでこそいのちがあって苦しくはありません。鳥は空中を飛んでこそ自由に歌えます。木は地に根を下ろしてこそ、葉も出て花も咲いて、実を結びます。そのように、神様の息を吹き込まれて霊的な存在として造られた人間は、霊である神様とともにいるとき、幸せを味わうようになります。しかし、人間が神様を離れた瞬間、人間は根こそぎ抜かれた木のように枯れて、干からびて、しわくちゃになって、いくらもがいて熱心に生きてみてもなにもなくて、実もなくて、虚しいだけです。鳥かごに閉じ込められた鳥のように、自由もなく、何かに縛られて、無気力の中で奴隷のように生きていきます。お金に縛られて、人間関係に押さえられ、心配と憂いと恐れの中で未来に対する希望もなく、漠然と生きていきます。これらすべての問題は、神様を離れたときにできた問題だから、ただ神様に会えば解決されます。神様に会う唯一の道としてこの地に来られたイエス・キリスト、その方を私たちの心に受け入れれば、私たちは直ちに神様の子どもとして創造のときに受けたすべての祝福と権威が回復します。十字架の死に勝って、復活してサタンの権威を滅ぼして、人間のすべての罪をあがなってくださったイエス・キリストが私のたましいの主人になってくださるとき、人間は最も美しい人生を生きていくようになります。そして、創造主なる神様の御声をまた聞くようになります。“It was so good,so very good!”「非常に良かった!」あなたはとても美しい人生を生きるべき大切な人です。

インマヌエル

アップルの CEO であるスティーブ・ジョブズは「私が恐れるのは死でなく、変化しない生活を送ることだ」と言いました。そして、彼は「毎朝、鏡を見ながら、今日が私の人生の最後の日ならば、今しようとするを本当にするだろうか」と尋ねると言いました。まことの選択、事実に基づく選択、神様の導きを受ける選択だけが、結局は、重要なことを残すようになるのです。それなら、必ず知っておかなければならない7つの事実と真実があります。① 本来の人間は神様のかたちとして創造されました。それで、神様と交わることができる唯一の存在であり、神様の中だけでまことの安息を味わうことができます。② ところが、悪魔の誘惑に負けて罪を犯して神様を離れるようになりました。その結果、神様のかたちが壊れて、その霊が死んだ状態になってしまいました。③ その時から失敗と死、苦しみ、休む間もなく入ってくるようになりました。④ 結局、この地で旅人の人生を送り、故郷である天国か地獄に行くようになります。⑤ 神様は人間に神様のかたちを回復させるためにキリストを約束して、キリストが人間となって来られ、十字架の死と復活で敵に勝って、人間が解決できない原罪の問題（創世記3章の問題）を解決してくださいました。⑥ その方がまさに神性と人性を持っておられるイエス・キリストです。すなわち、神様が人間となって来られたのです。⑦ イエス様は苦しみの中にいる人々に向かってこのようにおっしゃいました。「すべて、

「神様がともにおられることが
最高の力です」

疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイの福音書 11:28) 今、あなたの苦しみは何ですか。イエス様はあなたの苦しみをご存知で、それを解決することを望んでおられます。今、祈りを通して、イエス様を受け入れれば、あなたも永遠な神様の子どもになって、新しい人生を開始できます。あなたが神様の子どもになって、原罪が解決された時から、すでに祝福は始まります。もう苦難、迫害、病気、挫折の中でも「イエス・キリストが私のすべての問題を解決された!」という信仰を告白して、神様の計画を発見すれば、神様の権威と力が現れるようになります。私の人生の目的が発見できて、より良い答えの門が開くようになります。イエス・キリストの御名は万物を従わせる御名で、神様の力、神様の知恵であるからです。

今日が最高の祝福の機会です。今日起きるどんな問題でも、どんな状況でも、神様の前に立てば良いのです。それがいちばん真実な人間の姿です。そして、他のものを握る前に神様のみことば約束を握れば良いのです。そのみことばを持って自分の生活を確認するのは、それが最も事実的な生活を生きて行くことです。そして、神様の導きに従って、主と副を見分けて生きていくのが最も誠実なものです。イエス・キリストはすべての問題の解決者であり、解答です。

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンに支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とろい災いから私を解放してくださいました。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

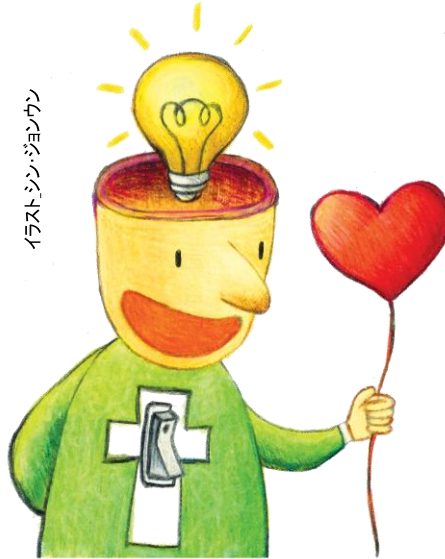
神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

たましいのスイッチ

自分はうつ病に苦しめられているのに、他の人を喜ばせることに最高の価値を与えたアメリカの喜劇俳優チャーリー・チャップリンは「人が生きていて、必要なことは愛と少しのお金だ」と言った。人にはとても重要なことだが、何の意識もなく感じもなく、足りないことを感じないことがあるのだが、それはたましいだ。どんな自然の動植物にもたましいは発見できず、ただ人にだけたましいがある。人間にたましいがあるという証拠は、いくら至高な愛とあふれるお金が与えられ

イラスト：ジョン・ウー



ても幸せではないというところにある。当然、幸せでなければならない人間が、たましいの価値をあきらめて、かえって自然と一つになりたい熱望で宗教を作った。人は心に望むまま自然の万物をながめながら喜びを味わって、詩を書いて、歌を歌わなければならない。ところで、支配しなければならない対象を敬って尊敬するので、人間にはたましいをのがした者の苦しみとして、いろいろな精神的うつ病と慢性病が蔓延している。観察できなくても人間には見えない所にたましいが存在する。人間は肉体とたましいで構成されている。精神的状態である心は観察はできるが、あらわれないたましいの作用は、場合によって感じることもできて、その存在の確実性を見つけることはかなり難しい。神様と人とサタンと悪霊を含んだ御使いだけ霊的存在だ。それで、目に見えない存在であるサタンが自分を現わすのが宗教と偶像であるが、その背景を通してその手下である悪霊が、人々の恐れを利用して、運命、生年月日による運勢を通して絶えずだまして、まただますのだ。親をだましていた悪霊が子どもをだまし、祖父をだました同じ方法で人間の失敗を誘導して、人々はお金と財物を使い果たしながらも、楽しくだまされているので、たましいの価値を知らない者た

ちの愚かな姿が残念なだけだ。

人間のからだには、たましいの価値を確認できる機関がある。人間のたましいは、本質的には神様を離れたので神様に会えない状態だ。すなわち、人間のたましいは、閉じられた状態で、その状態で人間は一生を生きて、結局、自分の所に行く。しかし、生きておられる神様のみことばが、その死んだたましいを過ぎ去るとき、たましいは生きようになり、神様が信仰をくださった人は生き返るようになっている。墓に埋められたラ

ザロにイエスがおっしゃられた。「ラザロよ、出てきなさい!」多分、そのまま出て来なさいと言ったら、その当時に死んだ人々がみんな出てきただろうが、イエスは名前を呼ばれた。死んだ者でも、みことばが彼を呼ぶとき、生き返るようになったのだ。その原理は今日も同じだ。イエス様の代わりをした伝道者がみなさんのそばに行っているいろいろ有益な話で伝えるのが福音であるが、それは死んだ場から出て来なさいということで、このとき、みことばに従えば生きようになるのであるが、これを救いと言う。神様のみことばが過ぎ去るとき、そのみことばを受けるのは肉でなく、肉の中にあるたましいだ。人はだれでも、からだに知ることができないたましいのスイッチがある。そのスイッチは、いつでも入れるのではなく、私が入りたいから入れられるのではない。神様のみことばが福音として個人に伝えられるとき、信仰で受け入れれば、そのとき、たましいのスイッチが入れられ、永遠の祝福が作用するのだ。たましいの価値が発見できれば、愛が足りなくて、お金がなくても幸せだ。なぜなら、その人は、神様とともにいることができる祝福の人であるためだ。

ジョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ